

平成 28 年度 大阪府立泉大津高等学校 学校協議会（第 2 回） 議事録

日 時 平成28年11月11日（金） 14：00～15：30
場 所 本校 応接室
出席者 水野委員、浦西委員、植野委員、安岡委員
校長、教頭、事務長、前田首席、林首席

1 校長挨拶

2 第 1 回議事録確認

3 授業見学

各学年（全クラス）の 6 限の授業を廊下から見学。

4 協議

（1）今年度の取組みについて

① 学校経営計画に基づく取組みの進捗状況について

ア 授業について

- ・授業アンケートの数値が年々増加している。満足度は低くはないが高いとも言えない現状。
- ・平日の放課後、早朝、夏季休業中の補習・講習も活発に行われている。
- ・ビジネス情報コースの検定合格者は倍増。来年度 2 年の選択者が半減。

イ 進路指導について

- ・進路個人カードをこれまで以上に成績や指導の軌跡がわかるように改善した。
- ・アクティブラーニングルームは十分に活用されている。
- ・大学・専門学校等から講師を招いて行う分野別進路学習を各学年で実施している。
- ・就職支援コーディネーターの配置も 3 年目になり、就職内定率100%を連続で達成している。
- ・今進めている進路指導をより確実にし、いかに発展させるかということが課題。

ウ 人権教育、自主性・規範意識の育成

- ・いじめ防止基本方針を現状に合わせて改定。
- ・部活動加入率は 7 月 1 日現在で45.6%。 5 割の壁を超えることがなかなかできない。
- ・1 学期の遅刻数が昨年度より約 1 %増加した。その原因について分析が必要。
- ・泉大津警察と連携した薬物乱用ブロッカーズの出前授業を泉大津市内の小学校 2 校、中学校 1 校で実施する予定。
- ・支援が必要な生徒についてケース会議の実施や学習支援員の配置を行っている。校内 LAN を活用した生徒情報の共有という新たな取組みも行っている。

エ 総合的な学校力の向上

- ・支援教育の観点から授業力向上研修、ヘイトスピーチについての人権研修を実施。
- ・泉大津市青年会議所と連携して模擬選挙を実施する予定。昨年度の後半から高校で実施することとなった「政治的教養をはぐくむ教育」の取組みの一つとして行う。選挙ポスターを掲示したり、本物の投票箱や記入台を借りたりして、できるだけ実際に近いものにする予定。

- ・広報活動については、学校紹介ビデオを更新している。学校Webページの更新を毎月1度行うことを目標としてきたが、なかなか実施できていない。
- ・中高連携については、昨年度と大きな変化はない。
- ・広報活動について、中学生や保護者がほしいと思う情報を把握し、こちらが伝えたい情報とすり合わせていくことが必要である。

②平成28年度進路状況

③広報活動について

(2) 平成28年度学校教育自己診断について

(3) 意見交換

○授業について

- ・卒業式は、例年、落ち着いているが、授業についても、どの学年も逸脱した感じはなく、雰囲気かのどかだと感じた。
- ・比較的落ち着いた雰囲気授業をしている。体育も楽しそうでいい授業だと感じた。
- ・子どもたちが落ち着いて授業に参加している。体育で子どもたちがやりたい種目を選択するなど工夫し、子どもたちが参加できるようにという先生方の思いを感じた。そこに子どもたちが乗りやすい雰囲気を作ってくれているのがうれしいと感じた。

○学校施設について

- ・老朽化しているところの修理等がもう少しできれば、学校見学に来た方にもいい印象を与えられるのではないかなと思う。
- ・子どもが中学校3年生でいくつかの高校を見学しているが、本当はいい学校でも校舎等の「きれいさ」にどうしても注目してしまうようで、この学校はきれいだから受験してみたいという気持ちにつながっている。現実的には難しいかもしれないが、何とかしていただきたい。

○学校教育自己診断について

- ・自己診断アンケートの教員の回収率はどのくらいか？ (A 7割程度である。)
- ・保護者からの回収率は60%ということだが、生徒を通して集めるのか。また、生徒用はほぼ集まるのか。 (A その通り。毎年、回収率は上がってきている。)
- ・未提出は一般社会ではあり得ないことだ。生徒や保護者に求めるのなら、強制しなくても教員には出してもらうべきである。(提出できない) 特別な理由があるのか。
(A 忙しくて忘れてしまうというのが最も多い。)
- ・学校教育自己診断は、教員のアンケートがメインで、生徒や保護者のアンケートが自己評価の資料となる。それらを踏まえて教職員が自己診断をして、それを関係者評価に出し、さらに第三者評価を受けるとというのが本来の形だと思うが、保護者からのアンケート結果を関係者評価に置き換えたり、教職員のアンケートが生徒や保護者のアンケートと横並びに扱われたりするなど、現場の扱いが異なっていることはないか。
(A 本校では、第3回学校協議会で学校教育自己診断を見ていただいているのを関係者評価として位置付けている。)

○学校の活性化に向けて

- ・3年の授業について、進路が決まっているからだろうか、生徒のモチベーションを保たせるのが大変なように感じた。どこの学校でも苦しんでいる問題で研究が必要だと思う。
- ・授業料無償化の影響などもあり、私立と公立の入学者の層が変わってきている。
- ・私学はいろんな費用がまだ高いので、まだ公立志向が根強い。
- ・私学は施設・設備の整備をセールスポイントにしている。
- ・私立は部活動を5つぐらいに絞り込んで、エキスパートの指導者を集めてやっている。
- ・私立の共学が増えてきて、公立と同じような雰囲気になってきている。
- ・私学は公立より努力している。泉大津高校を含め、公立高校は努力を重ねないと私立に吞まれてしまう。
- ・遅刻が増えてきたのは残念だ。これまで相当の努力をし、せっかく良くなってきたので、少し変わったなという意識を持たなくてはならない。
- ・当たり前のことを当たり前にならなくなってきたことが、学校がよくなってきたベースとなっている。今まで順調すぎたのかもしれない。壁に当たっている状態だと思うが、これを越えると次のステージに進める。
- ・学校選びでクラブ活動は大切なので、活発になってほしいと思う。
- ・例えば、ゴルフ部とか、ダンス部のような新しいタイプの部はあるのか？　トラディショナルな部活ではなくて、新しい部が変わってきてもいい頃ではないか。中学生がこの学校に来たいと思うようになるかもしれない。クラブに入れと言うだけでなく、そういう切り替えや工夫が学校の魅力づくりとして必要ではないか。
- ・他校にない、泉大津にしかないという部活があるのはいい。
- ・私立の強豪校は人数が多い。それが学校を引っ張っていく。泉大津高校もすべてフラットではなく、重点強化する部をセレクトするなど、そういう発想の転換が必要ではないか。すべての部で実績を上げるのは無理なので、何をアピールするか、専門的な指導者がいるとか楽しいとか、いろんなクラブがあっていい。
- ・中学校と高校の教員（指導者）のパイプがあると、子どもたちの交流も生まれ、進学先が変わっていくということはある。しかし、そのクラブの優秀な指導者がずっと続いていくというのは、公立校の場合難しい。
- ・部活動体験は学校説明会の日と同じなのか。　（A　本校は同日に実施している。）
- ・顧問どうしの強いつながりがあれば、平日でも高校生と一緒にクラブをしている。高校でもクラブをしたい子はその高校へ行こうとする。
- ・高校から中学校に行くということがあっても面白いかもしれない。
- ・交流があれば盛り上がっていくと思う。
- ・魅力づくりだけでなく、そういう側面もある。

4 校長挨拶